

地域計画

# 波瀬みらい物語



はせ  
波瀬むらづくり協議会

HP アドレス

<http://haze-muradukuri-kyogikai.jimdo.com/>

平成27年3月31日

波瀬むらづくり協議会

## はじめに

波瀬むらづくり協議会は、以前から高齢化問題、若者の定住を図る対策等、行政と連携して取組んでまいりましたが、地域に残された唯一の波瀬小学校も平成20年3月末に休校となり、元気な子どもの声も消えてしまいました。

住民の誇りであった波瀬小学校校舎が空き校舎となり、新しい課題が増えてきました。

少子高齢化・限界集落の問題は波瀬だけではなく、全国のいたる所で問題となっています。人口減少・高齢社会・都市部との格差等、行政だけで解決できず、各地域ごとの協力が求められています。

松阪市では、「新しいまちづくり」として、全43地域に住民協議会が設立され、自分たちのまちづくりを計画するよう求めています。

波瀬むらづくり協議会も、平成19年5月に設立し、今日まで「人の寄るむらづくり」を目標に取り組んできました。

子ども体験学習・環境美化・特産物の開発・夏まつり・公民館活動・地域福祉の促進、以上6つの部活動に対し、わずかではありますが、地域に活力が生まれて元気になってきたことは、住民の皆さんのご協力のおかげであります。

しかしながら、人口の減少と高齢化は今以上に加速していきます。

これから先、波瀬はどうなってしまうのか不安でいっぱいです。楽しい・住みよい・美しいむらを夢見れば、必ず夢がかなうと思います。

このたび波瀬むらづくり協議会では、これからのむらづくりの方向や目指すべき姿を明らかにする「地域計画書」策定しました。

この計画書の作成を一つのステップとし、みなさんと共にこれから先のむらづくりに取り組んでいきましょう。

平成27年3月

波瀬むらづくり協議会会長 福井 弘

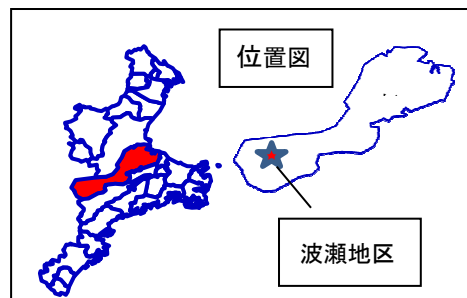


## 目 次

|                                  |                |
|----------------------------------|----------------|
| 1 地域の沿革と概要                       | 1 頁            |
| 2 むらづくりの動機・背景                    | 1 頁            |
| 3 人口推移                           | 2～3 頁          |
| 4 取組の現状と6部会の概要                   | 4～8 頁          |
| ① 【波瀬ゆり館部】                       | ② 【夏まつり部】      |
| ③ 【環境安全部】                        | ④ 【産業部】        |
| ⑤ 【文化部】                          | ⑥ 【福祉部】        |
| ⑦ 【学生との連携】                       | ⑧ 【豊かなむらづくり表彰】 |
| 5 むらづくりの成果                       | 9 頁            |
| 6 むらづくりの将来像                      | 10 頁           |
| 【人のよるむらづくり】                      |                |
| 7 波瀬地域の暮らしの課題について                | 11～16 頁        |
| ① 波瀬地域の良いところ                     |                |
| ② 波瀬地域で生活していくうえでの不安や課題           |                |
| 8 むらづくりの目指す姿                     | 17 頁           |
| ① 「生きるを学ぶ」体験学習で元気なむらづくり          |                |
| ② 「自然を守り地域防災体制の強化」で安全安心なむらづくり    |                |
| ③ 「地域コミュニティ活動と多様な交流」で絆が生まれるむらづくり |                |
| ④ 「地域福祉の推進と健康づくり」で笑顔があふれるむらづくり   |                |
| 9 役員構成図                          | 18 頁           |
| 10 目的を達成するための6つの部会               | 18 頁           |
| 11 むらづくりの具体計画                    | 19～24 頁        |
| 住民参加の懇談会での意見をもとに課題から提案           |                |
| ① 波瀬地域における仕事の創出と移住者の受入れに向けた取り組み  |                |
| ② 医療と福祉について                      |                |
| ③ 地域活動について                       |                |
| ④ 従来 of 各部会活動の継続                 |                |
| 12 計画の推進体制                       | 25～26 頁        |
| ◆ 地域計画の策定にあたって                   | 27 頁           |
| ◆ 地域計画策定委員                       | 27 頁           |
| ◆ 地域計画策定の経過                      | 27 頁           |
| ◆ 住民意識調査アンケート                    | 28 頁           |

## 1 地域の沿革と概要

波瀬むらづくり協議会は、松阪市の西端に位置し、西側の高見山を境に奈良県東吉野村と接している。周りを1,000m級の山々に囲まれた山間地域で、面積の95%以上を山林が占めており、櫛田川の源流を中心とする肥沃な林地が広がっている。



吉野林業の流れをくむ育林技術によって我が国でも有数の良質材の一大産地となっており、「波瀬林業」として全国的に知られている。

総戸数は302戸で、人口は608人となっている。(平成25年10月現在)

昔から大和と伊勢を結ぶ山道が、参勤交代の制度によって和歌山街道(現国道166号)となり、中世より紀州藩の本城と東の松坂城を結ぶ街道となった。

また、伊勢参宮や熊野詣、吉野詣の巡礼道となり、波瀬の地に文化を運ぶ重要なルートとして発達した。

かつての本陣中村屋(現在の田中家)が、往時を偲ばせる町並みとして保存されている。

現在は林業の衰退と少子高齢化が進んではいるが、受け継がれてきた文化や豊かな自然は変わらず、その恵みにより、波瀬地域ならではの郷土料理や動植物、四季折々の表情を楽しむことができる。

## 2 むらづくりの動機、背景

昭和56年7月に、①林業における課題解決②林業以外の他の産業の発掘③希望の持てる町づくり④行政との連携等の4つの問題意識を持って、地域住民(行政、林業家、生産組合、自治会、婦人会、老人会等)が広く参加結集し、「波瀬地域開発推進協議会」を設立した。その後、設立当初の課題に加え、社会情勢の変化による林業の落ち込み、過疎化の加速、遊休農地の増加、休校中の波瀬小学校の活用等、より多くの課題が生じてきた。



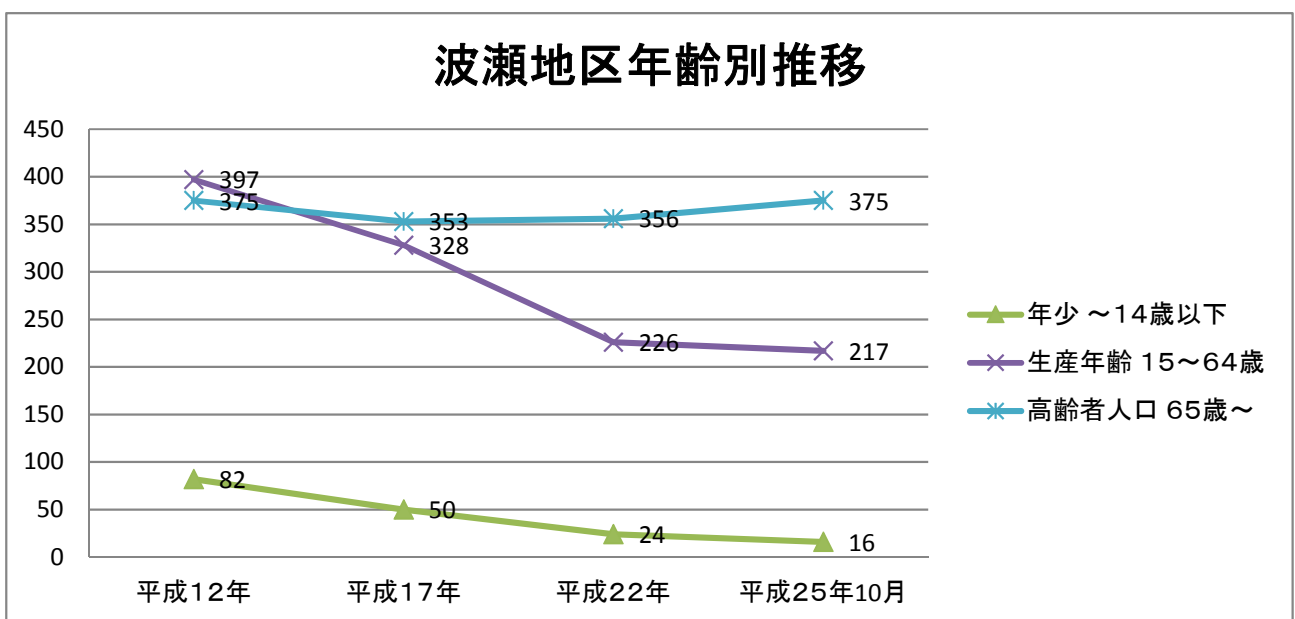
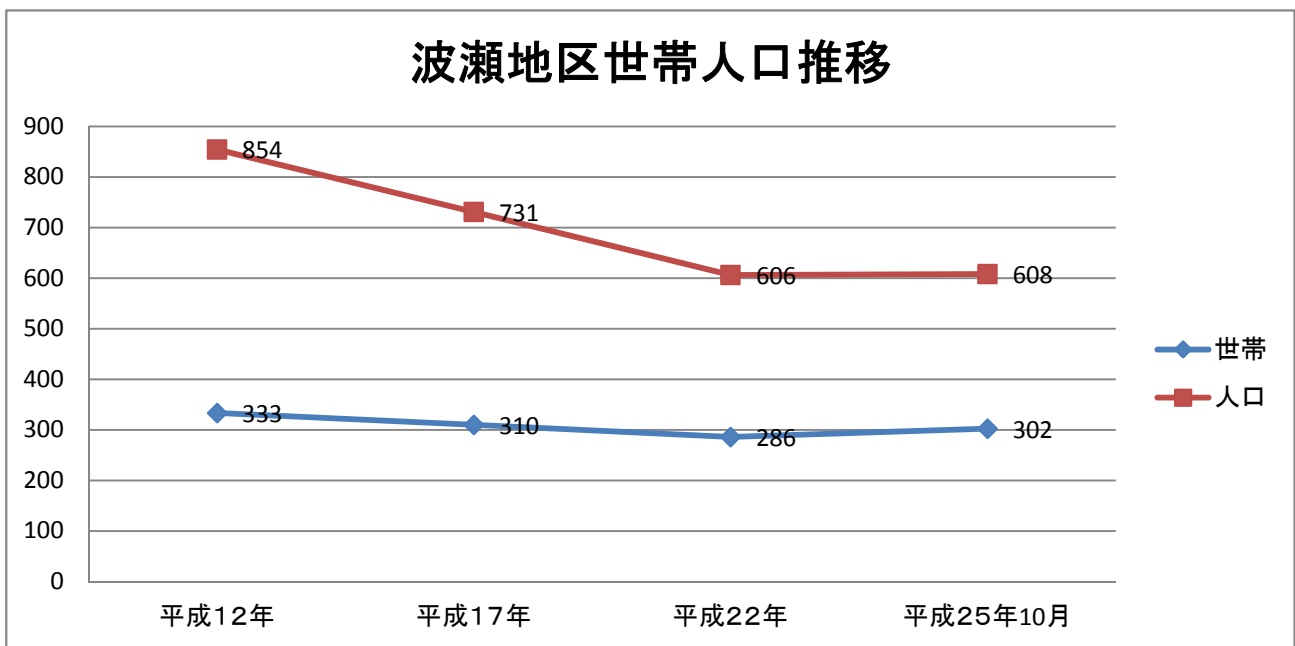
こうした年々増加する課題を行政ばかりに頼るのではなく、「自分達で出来ることは自分達でしょう。」を合言葉に、「波瀬地域開発推進協議会」を前身として引継ぎ、平成12年7月1日に「波瀬むらづくり協議会」を設立した。

現在も様々な課題を解決するための多様な活動を積極的に行っている。

### 3 人口推移

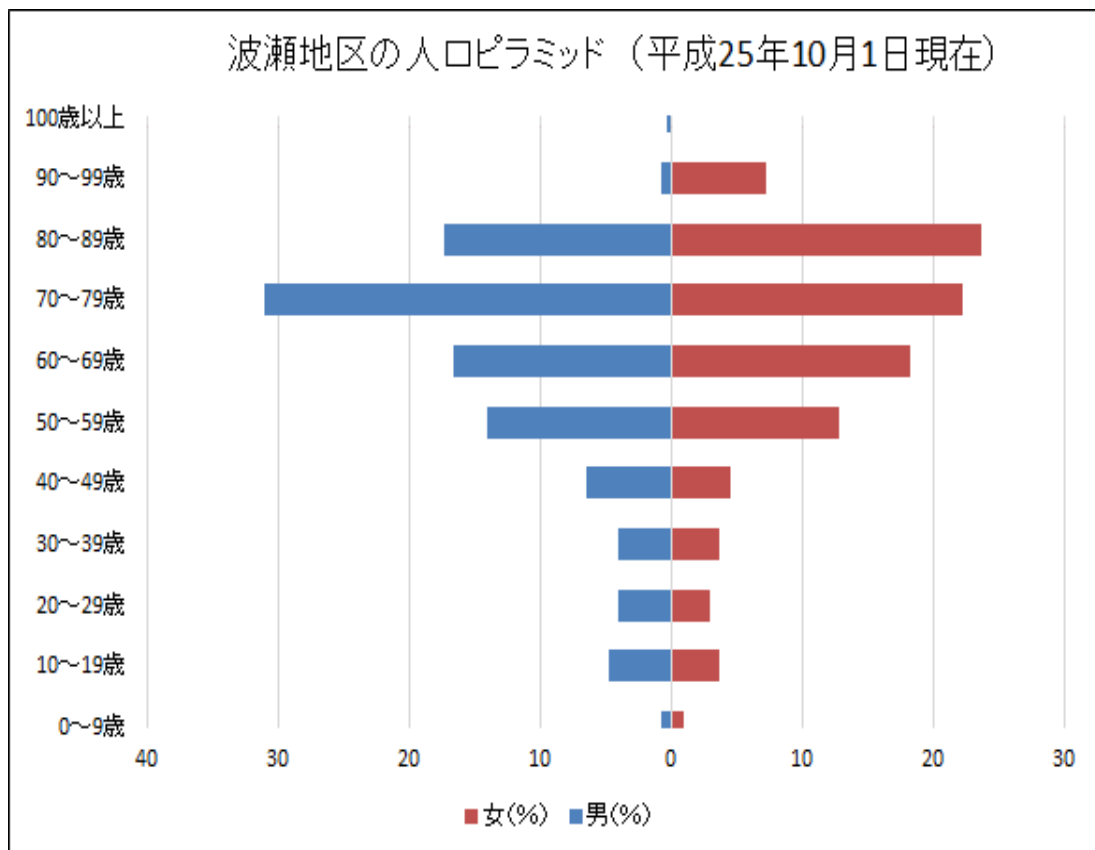
総務省 国勢調査資料(平成25年度は、住民基本台帳による)

| 波瀬地区     | 世帯  | 人口  | 年少<br>～14歳以下 | 生産年齢<br>15～64歳 | 高齢者人口 |      |      | 65歳以上の<br>独居世帯 |
|----------|-----|-----|--------------|----------------|-------|------|------|----------------|
|          |     |     |              |                | 65歳～  | 75歳～ | 85歳～ |                |
| 平成12年    | 333 | 854 | 82           | 397            | 375   | 172  | 38   | 46             |
| 平成17年    | 310 | 731 | 50           | 328            | 353   | 187  | 44   | 47             |
| 平成22年    | 286 | 606 | 24           | 226            | 356   | 199  | 56   | 63             |
| 平成25年10月 | 302 | 608 | 16           | 217            | 375   | 232  | 76   |                |



## 年齢構成

| 年齢      | 男  | 女  |
|---------|----|----|
| 0～9 歳   | 2  | 3  |
| 10～19 歳 | 13 | 12 |
| 20～29 歳 | 11 | 10 |
| 30～39 歳 | 11 | 12 |
| 40～49 歳 | 18 | 15 |
| 50～59 歳 | 39 | 42 |
| 60～69 歳 | 46 | 60 |
| 70～79 歳 | 86 | 73 |
| 80～89 歳 | 48 | 78 |
| 90～99 歳 | 2  | 24 |
| 100 歳以上 | 1  | 0  |





## 4 取組みの現状と 6 部会の概要

「人の寄るむらづくり」を活動の中心に据え、様々な交流を深め、取組みを更に進めていくために次の6つの部会を組織し、活動をおこなっています。

### ① 【波瀬ゆり館部】

#### 波瀬小学校を活用した体験学習の取り組み

平成20年3月末に休校となった波瀬小学校を有効利用するため、検討部会を立ち上げ、施設の名前を「波瀬ゆり館」と名づけ、「生きるを学ぶ」体験学習の拠点として、活用してきました。「山」「川」「里」の3つをキーワードに「生きる」ということを体験を通して学んでもらおうとするもので、指導者は、住民の匠（達人）の技を子供たちに伝え、波瀬地域の自然や文化、歴史、産業などが体験できる事業を進めてきました。

なお、「波瀬ゆり」とは、この地域に昔から自生する大輪で香り豊かな「ヤマユリ」のことで、波瀬地域住民は「波瀬ゆり」と呼んで、保護に務め親しんできました。

また、この花は市の花にもなっています。

- ・ 子ども体験学習の実施及び指導員（達人）の研修
- ・ 子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業の実施（国）  
（コーディネーターの配置）
- ・ 子ども農山漁村ふるさと体験受入モデル体制整備事業の実施（県）
- ・ 「はぜゆり館」でのイベント開催



### ② 【夏まつり部】

#### はぜ夏まつりの開催

地域住民とお盆で帰省される人たちとの交流の場として「夏まつり」を開催し、波瀬地域の伝統的な盆踊りの保存に努めてきました。

また、関西学院大学生による若い力をいただき、波瀬地域の活性化を図ってまいりました。学生ならではの斬新なアイデアが住民に変化をもたらし、大学、波瀬地

域ともに現在でもよい連携が続いており、今後も、大学、学生たちの力を期待しております。

- ・盆踊りの保存（祭文踊り、やっこ踊り、はせ踊り、ふたつ拍子、たんだ踊り  
やっちゃん踊り、あいひき踊り）



### ③ 【環境安全部】

#### 環境美化運動や防災訓練の実施

私たちの住む波瀬地域の良さを再認識し、美しい自然を守っていくとともに、風情ある景観づくりに務めています。

各自治会による公共施設や道路端の草刈りをおこない、地域の景観にあった四季折々の花木の植栽を積極的に進めてきました。

各自主防災組織の強化を図り、防災意識の高揚に務めてきました。

- ・虹の森環境整備（草刈、施肥、補植作業）
- ・道路沿いの環境整備（樹木の植栽）
- ・各自主防災組織の充実（総合防災訓練及び消火栓訓練の実施）
- ・「はぜゆり」の保存、保護活動
- ・委託事業 公衆トイレの清掃（波瀬・泰運寺・高見）  
近畿自然歩道管理及び中央構造線管理



### ④ 【産業部】

#### 遊休農地の再生と地域特産品の掘り起こし

遊休農地の再生と活用を図り、景観保全や獣害の軽減、産地のブランド化、農業の



6次産業化等に取り組んできました。

波瀬ブランドとして定着するクレソンの生産増加に務めるほか野菜作りも行い、収穫したクレソンや野菜の販路拡大に努めています。

また、ふれあい市や市内のショッピングセンターに「彩り166」をオープンし、産直販売を行ってきました。

このほか、地域の女性の交流の場として、女子会も開催しています。

- ・遊休農地活用と農作物販売組織の充実
- ・クレソンを中心にした加工品の開発
- ・獣害対策への取り組み
- ・「月出の里」整備事業（ふるさと応援寄付金）



## ⑤ 【文化部】

### 住民がいきいきと楽しめる文化活動の取り組み

波瀬公民館では、文化講座、現地視察、サークル活動、映画会などを開催しています。

また、秋には、ふるさとまつり（文化祭）を開催し、作品の展示やステージ発表などをおこなってきました。

さらに、協議会の幅広い活動を、迅速に多くの人たちに伝えるため、HPを作成するとともに、(<http://haze-muradukuri-kyougikai.jimdo.com/>) 会員向けに「よいとこな通信」を年数回発行するなど、積極的に情報発信を行ってきました。

- ・波瀬公民館運営の充実
- ・波瀬ふるさとまつりの充実
- ・史跡、旧跡、伝説等の編纂
- ・「よいとこな通信」の発行
- ・ホームページの更新



## ⑥ 【福祉部】

### 住民の福祉と健康づくり

波瀬地域の福祉活動として、健康をテーマとした講演会、グランドゴルフ大会、健康ウォーキングなどを行ってきました。

「波瀬ふるさとまつり」では、多年にわたり社会につくしてこられた高齢者を敬愛し、長寿を祝う会（敬老会）を開催してきました。

また、各地域のボランティアが交代で、暑い時期を除き毎月1回、一人暮らしのお年寄りに配食サービスをおこなってきました。

「飯高波瀬・森コミュニティーバスたかみ」の充実に努め、交通弱者といわれている子どもや高齢者の足の確保に努めてきました。

- ・ 配食サービス
- ・ 三世代ふれあいグランドゴルフ大会
- ・ 長寿を祝う会（敬老会）
- ・ 健康ウォーキング
- ・ 親子映画会



## ⑦ 【大学生との連携】

「限界集落活性化プロジェクト」で、関西学院大学人間福祉学部生と連携

「限界集落に限界はない」を合言葉に、平成21年から関西学院大学の学生と共に限界集落活性化プロジェクトを進めてきました。連携の内容は、体験学習プログラムの作成のほか夏まつりの開催、遊休農地を再生した「クレソン」の栽培にも連携して取り組んでいます。

「地域おこし」・「健康づくり」で、三重大学医学部生と連携

三重大学医学部生たちが、地域住民の医療への要望や満足度の聞き取り調査を行いました。連携の内容は、地元特産品のクレソン料理の試食会や健康ウォーキングマップを作成するなど「地域おこし」と「健康づくり」に連携して取り組んでいます。



## ⑧ 【豊かなむらづくり表彰】

日本農林漁業振興会会長賞受賞・農林水産大臣賞受賞

平成25年度「豊かなむらづくり全国表彰事業むらづくり部門」において、東海農政局管内で農林水産大臣賞を受賞し、この決定を受けて学識経験者等から構成される「農林水産祭中央審査会むらづくり分科会」において、天皇杯、内閣総理大臣賞に次ぐ日本農林漁業振興会会長賞を受賞しました。

この受賞は、私たち協議会が波瀬地域ぐるみで「むらづくり」に取り組んでいる活動が評価されたものです。



## むらづくりの成果

### これまでの主な成果

- ① 休校中の波瀬小学校を活用した「生きるを学ぶ」体験学習  
→ **地域の活性化と雇用の確保**
- ② 再生農地で生産したクレソンや月出米のブランド化  
→ **新たな需要を創出し、所得の向上を実現**
- ③ 林業家による若者 20 名の雇用 → **林業後継者を確保**
- ④ I ターン者 13 組の移住・定着 → **人口の減少が緩和**
- ⑤ 大学生のむらづくりへの参画 → **人の寄るむらづくりが加速**

### むらづくりを進めたことによる波瀬地区住民の意識変化

以前は、引っ込み思案であったが、いろいろな人との連携により、**男性・女性、移住者等の分け隔てなく人の意見には耳を傾け、自分の考えを言えるようになった。**

### これから

地域外の人たちとの交流を通じ、地域を活気づけるとともに、波瀬を訪れた人が将来も波瀬に集まってくるような魅力的な地域にしていきたい。

## 5 むらづくりの成果

林業の落ち込みや過疎化の進行、遊休農地の増加等、様々な地域の課題を解決しようと、協議会では、「ともに考え」「ともに汗をかき」むらづくりを進めてきました。

私たち「むらづくり協議会」が取り組んできたことは、初めてのことが多く手探りの中から試行錯誤を重ね、今なお現在も模索している最中ですが、ささやかな成果として、次の4つのことが生まれてきたと考えています。

- ① 再生農地で生産したクレソンや月出産米のブランド化による、新たな需要の創出と所得の向上
- ② 林業家による若者 20 人の雇用による、林業後継者の確保
- ③ I ターン者 13 組の定住・定着による人口の減少緩和
- ④ 大学生のむらづくりへの参画による、人の寄る「むらづくり」の加速

今後も、地域外の人たちとの交流をさらに進めることで、地域を活気づけるとともに、一度波瀬を訪れた人が、将来もまた波瀬に集まってくるような、そんな、魅力的な地域にしていきたいと考えております。



## 6 地域の将来像

### 【人の寄るむらづくり】



波瀬むらづくり協議会では、波瀬の住民を「波瀬ゆりの鱗茎（球根）」に部会の取組みを「波瀬ゆりの花」に、交流する人達を「そこに集まる虫達」に例えています。

綺麗な花が咲くと様々な虫達が集まってくる。そして、人が来るところは栄える。

集まった人達から少しずつお裾分けしてもらい、地域はもっと元気になり、また、綺麗な花を咲かせる。

波瀬むらづくり協議会では、そんな願いを込めた「人の寄るむらづくり」を活動の中心に据え、今後も様々な交流を深め、取組みをさらに進めていきたいと考えております。

波瀬地域の人口を増やすことはできないかもしれない。しかし、様々な交流は地域の良さを見つめ直すきっかけとなり、新しいまちづくりを進めることができる。また、この地域を離れた人たちも故郷が元気であると更に故郷に関心をもってくれる。このような取組みを進めていきたいと考えています。

## 7 波瀬地域の暮らしの課題について

### (1) 波瀬地域の良いところ、自慢できるところ

#### ① 住民同士のつながりが強く、支え合いの関係がある

◆こんな意見が出ました！

- ・ 近所の高齢の方を家族みんなで見守る
- ・ みんなに可愛がってもらえる
- ・ 一人ではできなくても、やりたいことはたくさんある（支えたい！）
- ・ 友だちと気軽に話せる
- ・ 一人ひとりの子どもにあわせて注意してくれる
- ・ 全員顔見知りで安心できる
- ・ 悪いことをしてもすぐバレる（安心）
- ・ 人の家に気軽に出入りすることができる
- ・ 自分でできることは、自分でやる

#### ② 男女に関係なく、世代間のつながりが強い

◆こんな意見が出ました！

- ・ 男女区別なく仲が良い
- ・ つながりが強い（ex. 三世代同居）
- ・ 年齢の違い（世代間の差）はあまり気にならない

#### ③ Uターンやリターンを受け入れることができる

◆こんな意見が出ました！

- ・ 不便さがよくて、波瀬に来た
- ・ 移住してきた人は環境に興味があって来た
- ・ Uターンでも子どもを受け入れてくれる



#### ④自然や資源が豊かである

◆こんな意見が出ました！

- ・川で遊べる（つりの会など）
- ・田舎で不便だけど、空気、ご飯がおいしい！星がきれい！
- ・波瀬ゆりがあること
- ・環境がきれいと言われることがやりがい

#### ⑤ゆったりとして住み心地がいい

◆こんな意見が出ました！

- ・都会はゴミが落ちていてびっくりする
- ・便利でも東京に住みたい、都会に出たいと思わない
- ・市街地へ1時間で行ける！（強み）
- ・ゆったりとした流れ（雰囲気）
- ・みんな明るい

#### ⑥その他

◆こんな意見が出ました！

- ・移動スーパーがある
- ・店に常連になるとサービスがある（お菓子がもらえる）
- ・全体で行うことはみんな協力してやる
- ・一生ここで住みたい！
- ・週に1回スクールソーシャルワーカーが来る
- ・先生とのコミュニケーションが取りやすい（1クラス11名）



## (2) 波瀬地域で生活していくうえでの不安や課題

### ① 仕事がない

◆こんな意見が出ました！

- ・ 仕事（林業）がない
- ・ 仕事があっても通勤に時間がかかる
- ・ ネットでの仕事など通勤しなくてもいいような仕事も含めて、他の仕事のオプションが必要

### ② 人口減少・人口流出と暮らしの存続

◆こんな意見が出ました！

- ・ 子どもが増えたらいいのに
- ・ 一番最近生まれた子は10年前。亡くなる人はどんどん増える
- ・ 兄弟など外に出た人も帰ってこない
- ・ 高齢の方もいなくなっていくことに対する不安
- ・ 子どもたちが帰ってくる場所をこれからも維持できないと思う
- ・ 子育て世代にとっては生活しづらい
- ・ ここに暮らしていく価値をどう打ち出すか
- ・ 中間層がない
- ・ 一生住んでいけないという不安
- ・ 暮らしていくシステムをどう作っていくか？リスクにどう対応していくか

### ③ Iターン、Uターンの人たちの受け入れ

◆こんな意見が出ました！

- ・ 外の力がほしいが、入って来る方法もわかりにくい
- ・ 心の中までは受け入れられていない外の人たち
- ・ 若い人が（外から）入ってきても全体と交流がない
- ・ Iターンは、個人レベルでは受け入れられているが、コミュニティレベルで受け入れられていないのではないか
- ・ 活動できる若い人に来て欲しい
- ・ 県外の人に来てほしい（30～40代で車に乗れる人）

#### ④医療・福祉サービス

◆こんな意見が出ました！

- ・医療面が不安
- ・なくなってしまった小規模多機能型施設のようなものが必要
- ・救急車が来るのに1時間15分かかる
- ・病院が近くにない

#### ⑤交通が不便

◆こんな意見が出ました！

- ・コミュニティバスが1日三本。接続が悪く、あっても不便。
- ・バスの便数を増やして欲しい（奈良まで）
- ・車がないとどこにも行けない
- ・特急バスをつくりたい

#### ⑥買い物が不便

◆こんな意見が出ました！

- ・買い物をするところがない
- ・買い物、スーパーはあるが種類が少なく選択肢がない（価格が高い）

#### ⑦合併の弊害と公的サービスへのアクセス

◆こんな意見が出ました！

- ・行政から見放されていると思っている
- ・同じ町と言えど、場所が離れすぎている

#### ⑧見守りと支え合いの仕組み

◆こんな意見が出ました！

- ・高齢者同士が助け合える場をつくってほしい
- ・高齢一人暮らしで、緊急時どうしたらいいか？（瓶に個人情報を記載したものをに入れて冷蔵庫に保存しているという事例がある）

## ⑨伝統・文化の継承

◆こんな意見が出ました！

- ・ やってきたことは止めてはいけないというプレッシャー
- ・ 風習がすたれてきている（しめ縄を作れる人、方言など）

## ⑩空き家の増加

◆こんな意見が出ました！

- ・ 地区の中で“町”と呼ばれているところも空き家が増えている
- ・ 空き家があつて寂しい
- ・ 空き家バンクに登録されていても、IターンやUターンで利用すると拒否されることがある
- ・ むらづくり協議会として空き家バンクをどう活用できるか？

## ⑪地域活動、自治活動の継続

◆こんな意見が出ました！

- ・ 自分も地域の活動やむらづくり協議会の活動に協力したいが、高尚すぎる。敷居が高くて入れない
- ・ 今していることも、結局は生活の維持や人口の増加につながっていないのではないかという不安がある
- ・ つなぐ人（後継）がない！（青年団など）
- ・ 外の人の巻き込み+周りの人々（地域の人）を巻き込むこと
- ・ 事前にどう住民を巻き込めるか



## ⑫教育・子育て環境の変化

◆こんな意見が出ました！

- ・小・中と人数が少ないけど、高校になって人数が増えること（環境の違い）に対する不安
- ・学校の統合が続き、昔から知らない子と一緒にすることなど何度も環境が変わるので不安
- ・移住しても子どもの進学などで定着せず出て行く
- ・子どもが待ちの姿勢になっている。積極性がない。
- ・刺激が少ない（子どもにとって）
- ・公園がない
- ・高卒で仕事をする子が多い
- ・28年度から中学校が統合になる。通学が遠くなるので大変。親が送り迎えをするため負担が大きい

## ⑬その他

◆こんな意見が出ました！

- ・今日のような集まりに参加していない人の声が聞きたい（埋もれている声）
- ・虫が多いのが苦手
- ・外の人（外国人も含め）との交流ほしい
- ・現状維持でいっぱい
- ・水道が通っていないところがあり、住みにくい（水利権 25 万円が高い）



## 8 地域の目指す姿

### ① 「生きるを学ぶ」体験学習で元気なむらづくり

休校中の波瀬小学校を活用し、市内の子どもたちに「生きる力」を体験させる。「山」「川」「里」の指導者（達人）は、住民の匠の技を子どもたちに伝え、波瀬地域の自然や文化・歴史産業などが体験できる事業を進める。

### ② 「自然環境を守り、地域防災体制の強化」で安全安心なむらづくり

私たちの住む波瀬地域の良さを再認識し、美しい自然を守っていくとともに、風情ある景観づくりに務める。

地域の景観にあった四季折々の花木の植栽を積極的に進める。

遊休農地の再生と活用を図り、景観の保全と地域特産品の掘起しに務める。

各自主防災組織の強化を図り、防災意識の高揚に務めるとともに、防災訓練等を通し、万一の被災に安心なまちづくりを進める。

### ③ 「地域コミュニティ活動と多様な交流」で絆が生まれるむらづくり

「夏まつり」「ふるさとまつり」を通し、子どもから老人まで集う交流と楽しい集会の場をつくる。様々な人や地域と活発な交流を進め、波瀬地域を訪れやすい取組みを進める。

講座やサークル活動を充実し、活発な公民館活動を進める。

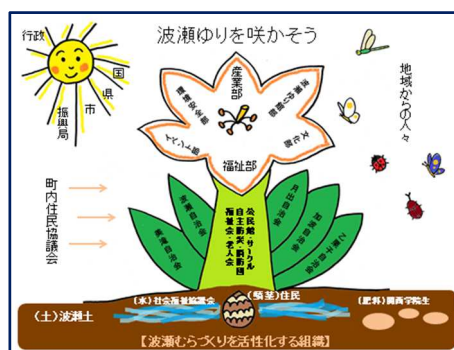
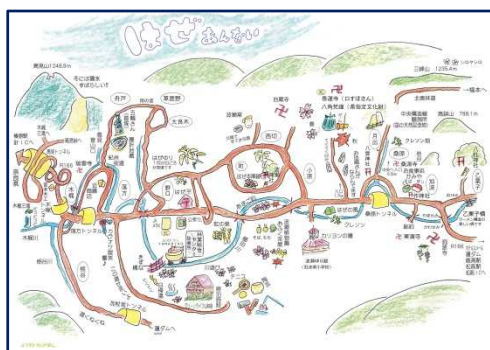
協議会の幅広い活動を、迅速に多くの人たちに伝えるため、「HPの更新」  
[\(http://haze-muradukuri-kyougikai.jimdo.com/\)](http://haze-muradukuri-kyougikai.jimdo.com/) や会員向の「よいとこな通信」を発行し、情報の発信に務める。

### ④ 「地域福祉の推進と健康づくり」で笑顔があふれるむらづくり

地域住民一人ひとりが、健康づくりを身近なものとして取組めるよう、健康調査、ウォーキング、グランドゴルフ等を通して健康づくりを進める。

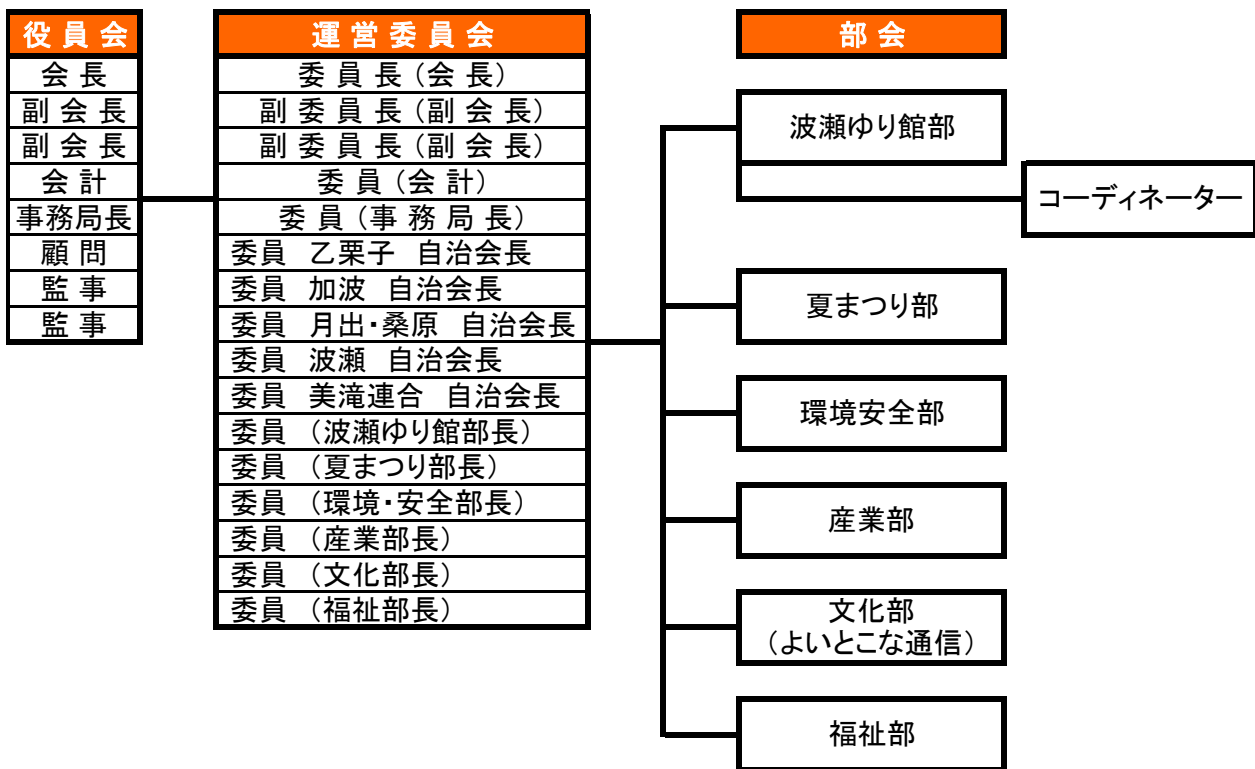
高齢者を敬愛し、長寿を祝う会（敬老会）を開催する。また、一人暮らしのお年寄りに配食サービスをおこなう。

「飯高波瀬森コミュニティたかみ」の充実に努め、交通弱者といわれる子どもや高齢者の足の確保を図る。

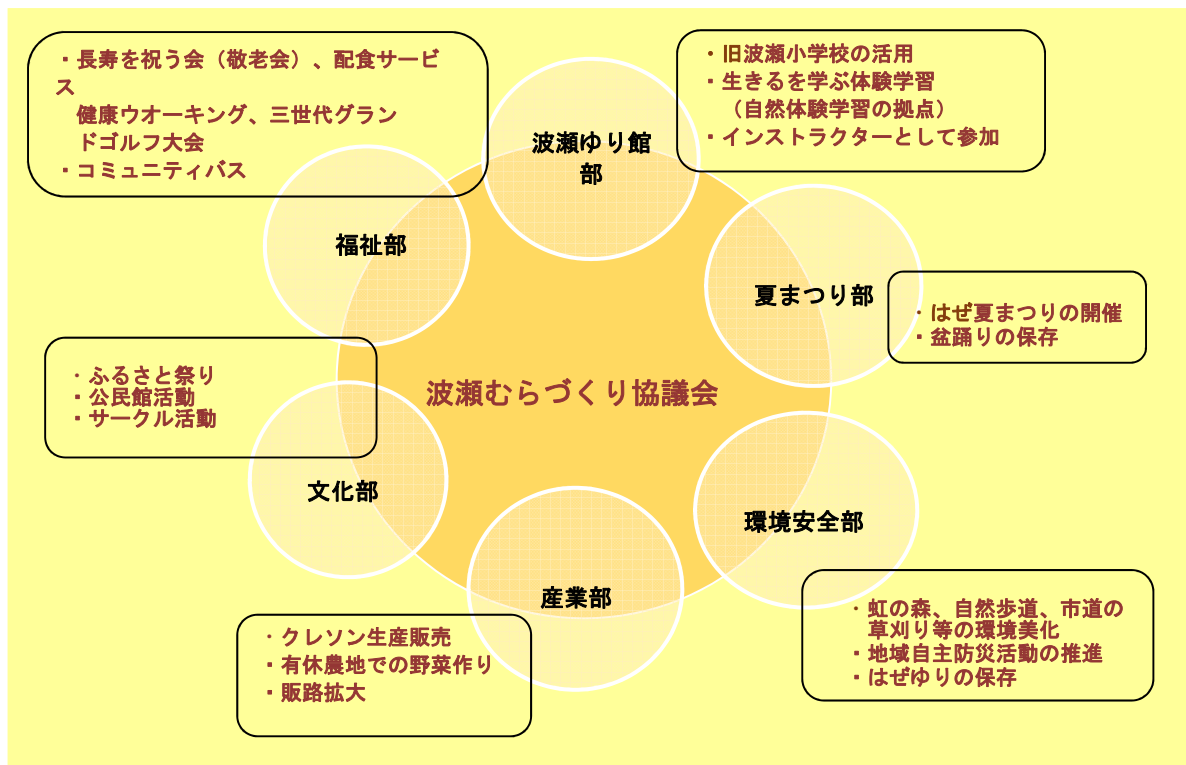




## 9 波瀬むらづくり協議会役員構成図



## 10 目的を達成するための6つの部会



## 1 1 むらづくりの具体計画

～住民参加の懇談会での意見をもとに課題から提案～

### (1) 波瀬地域における仕事の創出と移住者の受け入れに向けた取り組み

- ① 半農半X事業の事業化（起業）及びその支援【産業部】
  - ・・・農業と福祉、農業と教育（研修受入等）など、農業とセットの事業化（起業）及びその支援を行う。また、新規就農者への補助金があることから、誘致の手段としても活用できる
- ② 場所を選ばない仕事を持った人の移住促進【文化部】
  - ・・・波瀬の自然環境を活かし、IT業など場所を選ばない仕事をしている人たちの移住促進を図る。そのためにも、波瀬での暮らしの魅力を発信していく方策を同時に検討する。
- ③ 波瀬むらづくり協議会における仕事づくりの検討【産業部】
  - ・・・産業部を「遊び心のある仕事づくり部（仮称）」として、雇用が生まれる仕組みをつくることできないかを検討する
- ④ 廃校によるむらづくり協議会の管理財産化【波瀬の未来語り部（新設）】
  - ・・・今後、現在休校状態にある小学校が、廃校になった際の固定経費の負担をどうしていくかという問題がある。一方で宿泊施設化を進めたり、農産加工を行う福祉作業所を誘致・起業する、これらを農地等も含めて事業を管理する新たな法人を設立するなど、有効活用することで新たな雇用創出も見込まれることから、さらなる有効活用の方策を検討する。
- ⑤ その他にも！
  - ・・・今ある木材を利用したバイオマス発電を行ってはどうか！といった意見も出ていました！



## (2) 医療と福祉について

### ① 中学校統合後のスクールバスの有効活用【環境安全部】

・・・通学時間帯に合わせて住民が同乗したり、日中の間は住民が利用できるようにするなど、スクールバスを有効に活用する方策を検討する

### ② 配食サービスの規制緩和に向けた検討【福祉部】

・・・現在、配食サービスは 300 円／食で 20 名くらいが利用しているが、利用の条件として 65 才以上であること、食事が作れないこと、身体に障害がある、といったことが定められており、利用してほしい人に利用してもらえず利用者が増えない。

また、一食あたり 300 円という制限も厳格で、スーパーで購入したものしか使えず地域で作っている野菜を使えない。

これらの問題を解決するため、社協や市の担当者と話し合いの場を設け、規制緩和に向けて検討を行う。

### ③ 地域内での見守り活動の推進【福祉部】

・・・「見守り」を行うにも、どこまで生活に入り込んでいいのか迷うこともある。そのため、2) の配食サービスを生かした見守り活動の推進とともに、新たな仕組みとして月に 2~3 回訪問をしたり、家の前に毎朝旗などの目印を出してもらうなどの取り組みなどを今後の方策として検討する。



## (3) 地域活動について

ここでは、地区内にも地域活動をしたいという人が意外と多いこと、一方で、むらづくり協議会の事業や活動のハードルが高くてなかなか参加できないといった声があり、地区内の人々が地域活動に参加していくための方策を検討しました。同時に、地区外の人をどう地域活動に巻き込んでいくか、ということについても検討を行いました。

具体的な取り組み内容を、懇談会で出てきた意見をもとに、以下のように整

理しました。

① 空き家バンクの活用について【産業部】

・・・Iターン、Uターン組にとっても、引っ越しには勇気がいることから、これらを進めるうえで、空き家を活用した「波瀬での暮らしのお試し体験期間」のプログラム化を行う。

② 子どもを主体とした地域活動の企画【夏まつり部】

・・・祭りやスイーツフェスティバルなど、子どもが主体のイベント企画を行う。子ども自治会のようなものを立ち上げ、第一歩として夏祭りでのブース出店や舞台での出場を子どもたちとともに進める。

③ 波瀬ゆり館の活用とその方法のPRの促進【波瀬ゆり館部】

・・・例えば結婚式などをプログラムとしてパッケージ化するなど、波瀬ゆり館を有効に活用したプログラム検討し、積極的な利用促進を図る。

④ 多様な“遊び心”の集まりの場づくり【波瀬の未来語り部（新設）】

・・・世帯の集まりだと、年配の方が多くなったりいつも同じメンバーが集まる傾向にあることから、女子会や今回のような年代を超えて誰でも参加できるような食事会などを定期的を開催する

**(4) 従来の各部会活動の継続**

懇談会での意見交換のほか、各部会でこれまでの活動の振り返りと今後の活動についても検討を行ってまいりました。

各部会については、これまでに引き続き持続可能な事業運営の工夫を図り、かつ、これまで関心はあったけど参加していなかった地域の住民の方々の参画を進めながら活動を継続していきます。



## 【分野別の地域計画】

### ①「生きるを学ぶ」体験学習で元気なむらづくり（実施主体 波瀬ゆり館部）

| 事業名                    | 事業内容   | 主体 | スパン | 予定時期         | 摘要 |
|------------------------|--|----|-----|--------------|----|
| (1)「生きるを学ぶ」体験学習事業      | 子どもたちに「生きる力」を体験させる事業を進める。「山」「川」「里」の達人は、住民の匠技を子どもたちに伝え、波瀬地域の自然や文化・歴史産業などを体験させる事業。<br>なお、波瀬小学校施設については、その維持管理を市において継続して実施するものとする。 | 自主 | 中期  | H27～<br>(継続) |    |
| (2)指導員(達人)の研修事業        | 地域住民(達人)が各々の分野で長年培ってきた技術や知識を指導する研修を行う。   | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (3)子ども農山漁村コーディネーター設置事業 | 小学校における宿泊体験活動において、学校と地域の連絡調整や宿泊体験活動の支援を行うコーディネーターを設置する。  | 国  |     |              |    |

### ②「自然を守り地域防災体制の強化」で安全安心なむらづくり

(実施主体 環境安全部 産業部)

| 事業名                    | 事業内容  | 主体 | スパン | 予定時期         | 摘要 |
|------------------------|---|----|-----|--------------|----|
| (1)「虹の森」「道路沿い」の環境整備事業  | 「虹の森」の草刈り、施肥、剪定及び補植作業<br>国・県・市道沿いの景観美化事業を進める。                             | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (2)防災訓練事業              | 自主防災組織の強化を図り、防災意識の高揚に努める。また、防災訓練を通し、万一の被災に安心なまちづくりを進める。<br>消火栓ボックスの整備を行う。 | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (3)「はぜゆり」の保存保護事業       | 市の花にもなっている「はぜゆり」の保護、増殖に努める。   | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (4)防犯灯整備事業             | 各自治会で設置、維持管理している防犯灯の設置に対し助成を行なう。  | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (5)斎場運営事業              | 飯高管内火葬場運営委員会の運営を行う。<br>波瀬斎場の維持管理を行う。                                      | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (6)遊休農地の再生と農作物販売組織育成事業 | 遊休農地の再生を図り、景観の保全と地域特産品の掘り起こしに努める。   | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |
| (7)波瀬の里整備事業            | ふるさと応援寄付金を活用した山里の整備を行い、波瀬地域の景観保全に努める。                                     | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |    |



③「地域コミュニティ活動と多様な交流」で開かれたむらづくり

(実施主体 夏まつり部 文化部)

| 事業名                 | 事業内容  | 主体 | スパン | 予定時期         | 摘要           |
|---------------------|---|----|-----|--------------|--------------|
| (1)「夏まつり」事業         | 地域住民とお盆で帰省される人たちとの交流の場として夏まつりを開催し、波瀬地域の伝統的な盆踊りの保存に努める。        | 自主 | 中期  | H27～<br>(継続) | 年1回          |
| (2)「ふるさとまつり」事業      | 公民館のサークル活動及び各講座での作品の展示発表を行う。福祉部と共催で「長寿をお祝いする会」を行う。            | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) | 年1回          |
| (3)交流会・イベントの開催事業    | 様々な人や地域と活発な交流を進め、波瀬地域を訪れやすい取組みを行なう。                           | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) | 年3回          |
| (4)公民館運営事業          | 公民館活動を通して、一人ひとりの生涯学習を推進する。<br>地域社会づくりに参画できる人材を育成する。           | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |              |
| (5)広報誌及びHPによる情報発信事業 | 協議会の活動を迅速に多くの人たちに伝えるため、「HP」の更新及び会員向けに「よいとこな通信」を発行するなど情報発信を行う。 | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) | 年2から3回<br>随時 |

④「地域福祉の推進と健康づくり」で安心なむらづくり

(実施主体 福祉部)

| 事業名              | 事業内容   | 主体 | スパン | 予定時期         | 摘要   |
|------------------|--|----|-----|--------------|------|
| (1)福祉活動・健康づくり事業  | 地域住民が安心して生活を送るための福祉活動と健康づくりに取り組む。<br>・「三世代グランドゴルフ大会」<br>・「健康ウォーキング大会」<br>・「健康講演会」<br>・「料理教室」 | 自主 | 短期  | H17～<br>(継続) | 各年1回 |
| (2)長寿を祝う会事業      | 長年にわたり社会につくしてこられた地域の高齢者に対し、長寿をお祝いし労を労う行事を行う。(敬老会)  | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) | 年1回  |
| (3)コミュニティーバス充実事業 | 「飯高波瀬コミュニティーバスたかみ」の充実に努め、交通弱者といわれる子どもや高齢者の足の確保に努める。  | 自主 | 短期  | H27～<br>(継続) |      |
|                  |  |    |     |              |      |



⑤ その他

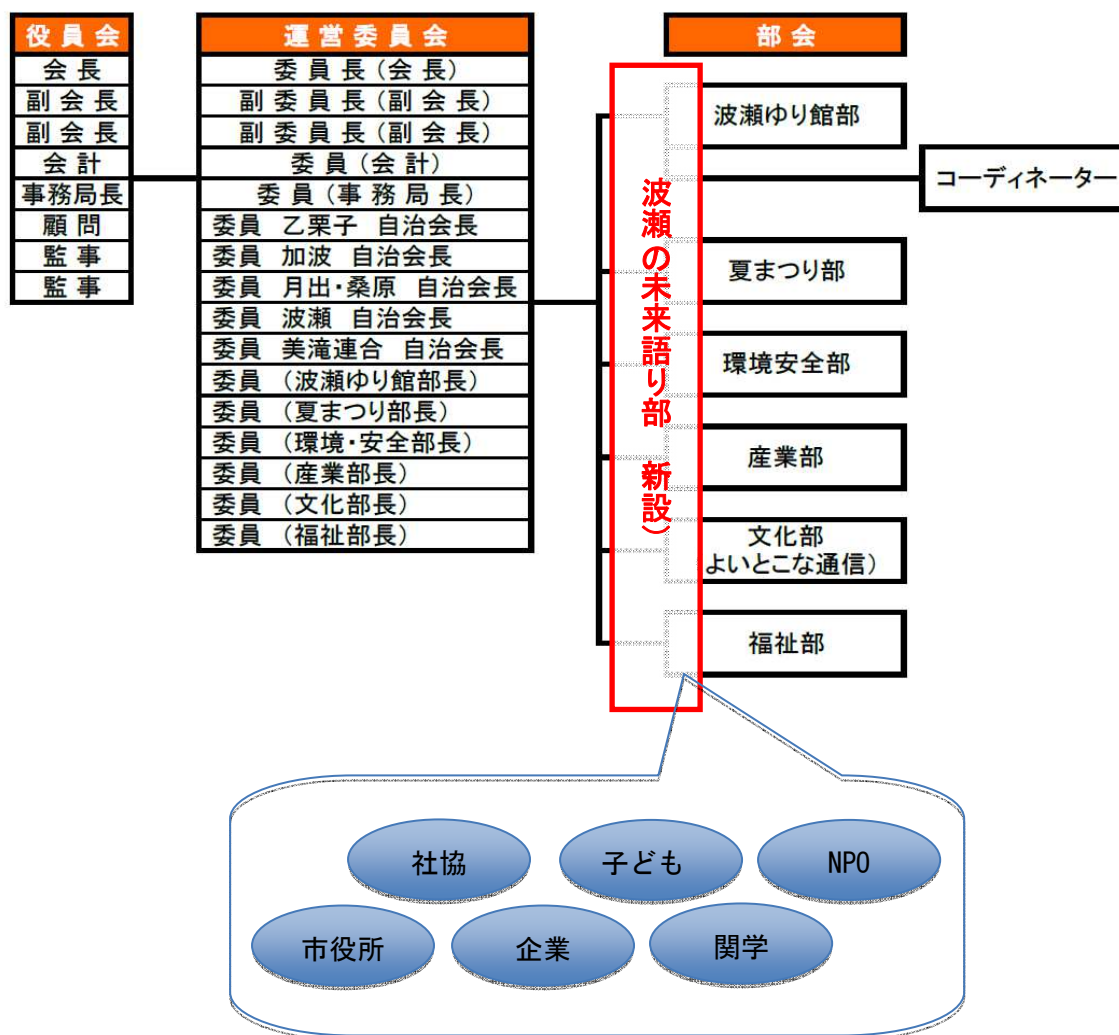
| 事業名                 | 事業内容   | 主体 | スパン | 予定時期 | 摘要 |
|---------------------|--|----|-----|------|----|
| (1)木梶三滝の周遊コース整備事業   | 木梶川の清流を流れる「白滝」「女滝」「不動滝」の三滝は、周遊コースが災害により危険であるので復旧の必要がある。          | 市  | 中期  | H27～ |    |
| (2)月出の中央構造線の観察所整備事業 | 国指定の天然記念物「月出の中央構造線」は、観察所が老朽化しており、危険であるので早急な修復が必要である。             | 市  | 中期  | H27～ |    |
| (3)県営林道の開設事業        | 林業生産コストの軽減、森林保全管理を進める上において、基盤整備の充実が必要不可欠と考える。<br>・櫛田川右岸流域縦貫林道の開設 | 県  | 長期  | H27～ |    |

## 1 2 計画の推進体制

今回の地区計画を推進していくにあたり、検討を要する事業については定期的に運営委員会及び各部会において協議を重ね、実施へとつなげていく。同時に、事業の進捗管理と評価を行う。

また、既存の部会メンバーのみでは対応が難しいものもあるため、既存の部会を横断する部会として、かつ、波瀬の子どもや地区外の関係者も参画する場として「波瀬の未来語り部（仮称）」を新設し、定期的な協議の場を設け、事業の具体化と実施へ向けた方策を検討する。

新・波瀬むらづくり協議会役員構成図（案）



## 波瀬むらづくり協議会



◆ 地域計画の策定にあたって

この計画は、地域住民の参加と総意に基づき策定されたものであり、地域住民の理解と協力のもと、自主的、積極的な活動の指針となるものです。

◆ 地域計画策定委員

| (役 職)    | (氏 名) | (役 職)   | (氏 名) |
|----------|-------|---------|-------|
| 会長       | 福井 弘  | 波瀬ゆり館部長 | 増田 進一 |
| 副会長      | 福本 博行 | 環境安全部長  | 大西 敏一 |
| 副会長      | 向東 克巳 | 夏まつり部長  | 長野 淳  |
| 会計       | 井谷 雅昭 | 産業部長    | 北川 京子 |
| 顧問       | 川口 伸  | 文化部長    | 寺脇 功  |
| 事務局長     | 向東 克巳 | 福祉部長    | 暮谷 勝治 |
| 乙栗子自治会長  | 臼木 正生 | 加波自治会長  | 浅井 清彦 |
| 桑原月出自治会長 | 中西 清博 | 波瀬自治会長  | 大西 敏一 |
| 美滝自治会長   | 原 弘巳  |         |       |

◆ 地域計画策定の経過

第1回策定委員会 平成25年1月15日

素案作成にあたって、意見聴取のため策定委員会の発足  
地域計画の策定にあたって4本の柱を提案

第2回策定委員会 平成27年2月24日

素案についての意見聴取

みんなで波瀬を語る会（波瀬ゆり館）

第一部「波瀬の課題ってなんやろか？」平成27年3月15日（50人）

第二部「波瀬の未来をつくってこ！」平成27年3月16日（30人）

策定委員、部会代議員、関西学院大学、市職員、市社協職員、県職員

第3回策定委員会 平成27年5月12日

素案についての意見聴取

平成27年度総会平成27年5月21日

地域計画の承認

◆ 住民意識調査アンケートの実施

波瀬地域のこれからの「どのようにしていったらよいか」「どんな地域になればよいか」波瀬地域に在住する中学生以上の人に考えを聞きました。